



No. 124

ティー・ブレイク

Tea Break

イラチということ

せわしく旧年が過ぎ、正月中はゆっくりした感じで過ごしましたが、正月も過ぎると加速された生活に戻らなければなりません。残念です。

イラチとは、大阪弁でよく使われる言葉で、語源はハッキリしませんが、「いら立ち人間」、「苛立ち」の省略と考えられ、意味は、「すぐ苛立つ人」あるいは「苛立ち」のことです。

さて、「イラチ」は、大阪でよく見受けられるのですが、別に大阪限定ではありません。

大阪の「イラチ」の程度のパロメーターとして、よく引用されるのが、歩行スピードです。「地域文化特性と運動行動」という国際交通安全学会誌によりますと、大阪人の歩行速度は、秒速 1.60m で、世界 1 位。2 位が東京で 1.56m、パリは 1.46m という結果です。

地方の人が大都会に出て来て先ず最初に受けるショックが、歩行中に後から後から人に追い抜かれていくことです。ショックから脱した人は「イラチ」に変身したということです。「イラチ」は、普段は苛立たないが、人に追い抜かれたりしたら「すぐ苛立つ」から「イラチ」なのです（24 時間苛立っていたら発狂する？）。

都会は、概して地方に比べ、生活リズムは早く加速されています。「アンタのんびりしてるから、長生きするわ。」と言われたら、「アンタとろい。」とイラチから軽蔑されているのです。「狭い日本そんなに急いで何所へ行く」という言葉が一頃流行りましたが今では廃れてしまっています。

以下に、「イラチ」が見かけられる街角風景をいくつか紹介することにします。

①エスカレーターにて

エスカレーター上で立ち止まらず歩いている人はイラチです。イラチでない人は、大阪では右側に寄り、東京では左側に寄り、イラチをやり過ぎす。左側か右側の違いは、東京が武士の町、大阪が商人の町と言われその名残です。この理由は考えて下さい。

②交差点にて

反対側が赤信号になった時点で渡り始める人についても、大阪では、よく見かける風景です。反対側の人も赤信号になった時点で両方とも赤信号だから大丈夫として突っ込むイラチも見かけます。イラチの本質は「苛立つ

ぐらいだったら死んだ方がまし。」なのです。知っていましたか？

ちなみに、大阪府の H16 年の交通事故死者数は全国第 4 位です。もともと大阪の交通道徳は、東京に比べればだいぶ悪いです。大阪名物の駐車違反が、取締りで減ってきています。残念？です。

③駅のプラットフォームにて

電車に乗るのに並ばないで割り込み乗車をする人。どついたらかと思う。大阪では、急ぐ人は割り込むのは当たり前、急がない人は割り込まれても損しないし次の電車に乗ればよい。この大阪伝統の合理主義？に「イラチ」が便乗している感じがします。

スピード社会の端緒を開いたのは、東京オリンピック前の新幹線開通だと思います。それまでの大阪から東京の出張が 1 泊 2 日から日帰りが当たり前になってきました。そして、バブル崩壊後、途中下車禁止のエコノミー切符が支給され、途中下車による見聞を広める機会も少なくなりました。

さらに、インターネット革命によって、さらに加速化されて、発注・見積・納品までのスピード化は留まる所を知りません。

社会全体をマン・マシーン・システムと考えれば、マシンの加速化は加速化された超右肩上がりで、マンの加速化はゆるやかな右肩上がりで（少しの進歩が大きな進歩ともいえます。）、マン・マシーン・システム全体の加速化も加速化された超右肩上がりです。100m 競争の世界記録の短縮度合いも、ずいぶんゆっくりしたものです。マン・マシーン・システムのなかでマシーンに囲まれた人間は大変です。間違いなくイラチが加速化された超右肩上がりで増えてくる。

「苛立つぐらいだったら死んだ方がまし」。イラチの本質。

私は数年前に 1 ヶ月ほど骨折入院しましたが、時間の進まない不思議の国に来たように感じました。会社から離れ強制ではなく自分の意志でやっている分にはイラチも苛立たない。趣味に発明なんかは良いのでは？

イラチ治療薬、イラチ治療方法を発明したらノーベル賞か億万長者です。ホントです。 (Tom Toc)